

半年ぶりの再会！ ～今回は冬の北国で交流を～

今年度も姉妹町の熊本県球磨郡多良木町との児童交流事業について、昨年7月に南幌町の児童10名が多良木町を訪問し、民泊など現地の児童と交流を行いました。今回は、2月7日から4日間の日程で窪田龍記校長（久米小・槻木小）を団長とした多良木町児童9名の訪問団が本町を訪れ、様々な体験を通してさらに本町との交流の絆を深めました。



【1日目】 2月7日 感動の再会

歓迎レセプション・民泊

飛行機の遅延により少々遅れての到着となりましたが、多良木町訪問団を乗せたバスが見えると、南幌小学校は出迎えた方々の歓喜に包まれました。夏に多良木町を訪れて以来、手紙や電話で交流を続けていたという児童たちは半年ぶりの再会に感動していたようです。

歓迎レセプションでは、青柳剛君が「夏は楽しい思い出ができました。今回はスキーなどで気持ち良い風を感じてほしいです。」と歓迎の言葉を述べ、多良木小の愛甲真都君が「久しぶりに会えて胸が高鳴っています。ワカサギ釣りなどが楽しみです。」と訪問の挨拶をしました。多良木小の江上凜さん、黒肥地小の山口友万さん、久米小の犬童梨心さんからは多良木町の風土や文化、各小学校の様子などが紹介されました。

レセプション終了後、多良木町の児童はそれぞれの民泊家庭へ向かい、各家庭で楽しい時間を過ごしました。



①

- ① 出迎える児童たち
- ② 青柳剛君（南幌小）の歓迎の言葉
- ③ 愛甲真都君（多良木小）の訪問の言葉
- ④ 歓迎レセプションの様子
- ⑤ 多良木町の紹介をする江上凜さん（多良木小）、山口友万さん（黒肥地小）、犬童梨心さん（久米小）



⑤



④



②



③

なんぼろ冬まつり

午前中は民泊家庭で「そり」や「かまくら」遊びなど楽しい時間を過ごし、昼食会場の夢玄に集合。



全員でみそ・塩・しょうゆ、好みの味を注文して北海道のラーメンを堪能しました。

満腹になった後は『なんぼろ冬まつり』会場へ移動です。会場では大型すべり台や雪像が迎えてくれました。午前中から降り続いた雨の中でしたが、スノーモービルやバナナボート、さらにはゴムチューブ滑りに歓声を上げていました。

しかし、時間を追うごとに雨足が強くなり、この後に予定されていた雪合戦やアイスキャンデル点灯式などのイベントが中止という残念な結果に…。一同、この時期まさかの雨を恨みました。急遽、予定を変更して即席のミニバレーボール大会と卓球大会を開催しました。「退屈していないか」「楽しんでくれているか」と心配する大人をよそに予定の時間ギリギリまで楽しんでいました。



子どもも大人も大はしゃぎ!



美味しい料理に舌鼓♪



手作りビュッフェでおもてなし♪

十分すぎるほど身体を動かす、そろそろお腹がすいてくる時間。この日の夕食は民泊家庭の保護者による手作りビュッフェ、その名も『南幌ママ・マルシエ』。海鮮井から始まりザンギに冷製豚しゃぶ、チーズフォンデュに石狩汁などなど、北海道ならではの料理がテーブルの上には並べられ、リゾートホテルに負けず劣らずの豪華さでした。その美味しい料理に全員が舌鼓を打ち、お腹だけではなくお母さん方のたっぷりの愛情に心も満たされました。

美味しく楽しい夕食会場を後にした両町児童は今晚の宿泊先であるなんぼろ温泉に移動し、今日の楽しかった出来事や夏の交流の思い出話に花を咲かせていました。

おいしそ～!



ワカサギ釣り

前日は夜遅くまで語り合っていたせいか、朝の集合では全員が眠たい目をこすりながら静かにロビーの椅子に座っていました。この日は早朝から歩いて親水公園まで移動し、ワカサギ釣りを行いました。寒い中、ワカサギがエサに食らいつくのをじっと待ち続けましたが、残念ながら一匹も釣ることができませんでした。一方で、専用のドリルで氷に穴を開けるのを楽しんでいる児童も多くいました。

終了後は、なんぼろ温泉に戻り、朝食をとりました。本来であれば釣れたワカサギを天ぷらにして出す予定でしたが、万が一のために事前に準備しておいたワカサギを、食卓へ出すこととなりました。

スキー体験

朝食後は、冬の児童交流事業恒例であるスキー体験を北広島クラッセスノーパークで行いました。多良木町児童のほとんどが初めての体験で歩くことすらままならない状態でしたが、インストラクターの指導を受け、め

きめきと上達し、1時間くらいすると一人で滑走できるまでになって南幌町の児童と一緒にスキーを滑って楽しみました。

釣れな〜い!



肉もあるよ〜!



最後の夜を一杯楽しもう!



さっぽろ雪まつり

ホテルで昼食をとり、その後、札幌へ向かいました。例年以上にツルツルと滑る路面に気を付けながら歩き、まずは時計台前で記念撮影。そして、雪まつり会場へ移動しました。人の多さと賑やかさに驚きながらもたくさん雪像を見ることができました。ここ数日の暖気で取り壊しや修復もあったという雪像でしたが、精巧につくられた大雪像や市民雪像に感動していました。その後、北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）で記念撮影をして南幌へ戻りました。

なんぼろ温泉

なんぼろ温泉で冷えた体を温め、夕食のジンギスカンを食べました。ジンギスカンを鍋を初めて見たという多良木町児童に南幌町児童が焼き方を教えたりしていました。食後は民泊家庭を交えて、多良木町や南幌町にまつわるクイズやゲームで大いに盛り上がり、楽しいひと時となりました。

宿泊部屋に戻った後も最後の夜を惜しむように話は尽きなかったようです。

【4日目】 2月10日 楽しかった思い出を胸に

お別れ会

あつという間の4日間、とうとうお別れの時が来ました。お別れ会は民泊家庭の保護者や来賓に加えて南幌小6年生全児童も出席し、南幌小音楽室で行われました。南幌小の鈴木紫和理さんと久米小の犬童梨心さんから「スノーモービルやスキーで楽しく遊ぶことでできて楽しかったです。これからも連絡を取り合って絆を深めていきたいです。」と、お別れの言葉がありました。

この後、正面玄関で民泊家庭の保護者やお別れ会に出席してくれた南幌小6年生全児童も加わり集合写真を撮りました。バスが出発するギリギリまで写真撮影をしたり握手や抱き合ったりと別れを惜しんでいました。最後は全員で手を振り、多良木町訪問団を乗せたバスの姿が見えなくなるまで見送りました。



解団報告式

多良木町訪問団を見送った後、南幌町訪問団の解団報告式を行いました。岡田裕明団長（南幌小学校長）、三好富士夫町長からの挨拶の後、渡邊寛大君と嘉津山詩恩さんが感想発表を行い、今年度の児童交流学習事業は終了しました。



①見送りの児童と集合写真
②③児童たちの記念写真
④⑤お別れの言葉を述べる鈴木紫和理さん(南幌小)と犬童梨心さん(久米小)
⑥⑦感想発表をする嘉津山詩恩さん(南幌小)と渡邊寛大君(南幌小)



平成26年度姉妹町児童交流を終えて

7月に訪問した真夏の多良木町で感じた暑さと心温まる「おもてなし」から、多良木町の児童に冬の北海道を感じてもらえたらと、年明けに行われた保護者説明会で手作りピュッフェ『南幌ママ・マルシェ』や『なんぼろ冬まつり』への参加などが提案され、一致団結して受け入れ準備を進めてきました。滞在期間中、雨というハプニングもあり予定の一部が変更になりましたが、南幌ならではの「おもてなし」ができたと思います。

今回、事業に参加した両町の児童の皆さんは、何を感じ、学び取ってくれたでしょうか？多良木町訪問の際に行われた結団式で岡田団長（南幌小学校長）が児童に対して「五感を使って違いを見つけてほしい」と言葉を送りましたが、まちの香りや味覚、暑さや寒さ、加えて「おもてなし」の心は実際に訪れて接して、触れてみなければ感じ取ることができないものです。児童交流で感じ、学び取った多くの「こと」や「思い」を大切にし、これからの成長の糧にしてください。



ばと思います。多良木町との姉妹町交流は児童交流事業に加え「姉妹町交流研修補助制度」などを通じて一般の住民との交流も始まっています。今後さらには両町が交流を深めて強い絆で結ばれることを切に願います。

訪問団引率者一同